

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性					変異原性					発がん性		備考				
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類	備考		
22	エピクロロヒドリン	良分解性	2	3		2	2								0.0076	旧二監(化管 法)												産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R		化管法由 来	
23	エチレングリコールモノメチルエーテル	良分解性	2		3	2																							化管法由 来		
24	2-(1-メチルエトキシ)エタノール	難分解性	2	2	4	外		30	6	10				6000	0.005			125	10							(-)	(-)				
26	アセトアルデヒド	良分解性	2				2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:3 NTP:R		化管法由 来	
28	酢酸ビニル	良分解性	2	4		2	2								0.2	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来
31	アクリル酸メチル	良分解性	2				2																				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来	
32	アクリル酸エチル	良分解性	2				2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来	
34	アクリルアミド	良分解性	2	3	3	2	2								0.005	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:L(2005) EU:2 NTP:R		化管法由 来
35	メタクリル酸	良分解性	2	2											0.00025	旧二監(化管 法)															化管法由 来
36	エチレンジアミン四酢酸	難分解性	2	4			2								0.08	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1			化管法由 来
37	ニトリロ三酢酸	難分解性	2	4			2								0.08	旧二監(化管 法)													IARC:2B NTP:R		化管法由 来
38	アセトニトリル	良分解性	2				2																				化管法変異原性 クラス1	EPA:D(1986)・ CBD(1996)		化管法由 来	
40	チオ尿素	難分解性	2		3	2	2																				化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:3 EU:3 NTP:R		化管法由 来	
43	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	良分解性	2	2											0.00004	旧二監(化管 法)													IARC:3		化管法由 来
46	トルエン	良分解性	2		外		2																				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:1(2005)		化管法由 来	
47	スチレン	良分解性	2				2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B NTP:R		化管法由 来	
48	イソプロベニルベンゼン (別名 α-メチルスチレン)	難分解性	2		4	2	2											200	1	10	1000	0.2	厚生省(既存 点検)					化管法変異原性 クラス1	IARC:2B		化管法由 来

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性					発がん性		備考				
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類	備考		
50	エチルベンゼン	良分解性	2				2																					産衛学会:2B IARC:2B EPA:D(1986)		化管法由 来	
51	ベンジル=クロリド (別名塩化ベンジル)	良分解性	2			2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2		化管法由 来		
52	o-ジクロロベンゼン	難分解性	2	4		2									0.24	旧二監(化管 法)											化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来	
53	p-ジクロロベンゼン	難分解性	2	3	4	2	2								0.03	旧二監(化管 法)	250	1	10	1000	0.25	環境省:化学 物質の環境リ スク評価					化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EU:3 NTP:R		化管法由 来	
55	m-フェニレンジアミン	難分解性	2	2											0.0004	旧二監(化管 法)												IARC:3		化管法由 来	
56	o-フェニレンジアミン	難分解性	2	2		2	2								0.0004	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	EU:3		化管法由 来		
58	o-クロロアニリン	良分解性	2			2																				化管法変異原性 クラス1			化管法由 来		
59	ニトロベンゼン	良分解性	2	3	3	外	2								0.02	旧二監(化管 法)											有害性評価書 (2008)	産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R		化管法由 来	
60	p-クロロニトロベンゼン	良分解性	2	2		2	2								0.0026	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3		化管法由 来		
62	フェノール	良分解性	2			2																				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ 1(1999)		化管法由 来		
65	ピロカテコール (別名カテコール)	良分解性	2			2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来		
66	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	良分解性	2	2	3		2								0.0024	旧二監(化管 法)												産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) NTP:R		化管法由 来	
67	テレフタル酸ジメチル	良分解性	2			2																				化管法変異原性 クラス1			化管法由 来		
68	テレフタル酸	良分解性	2	2											0.000073	旧二監(化管 法)														化管法由 来	
69	1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸1, 2-無水物	良分解性	2	2											0.00016	旧二監(化管 法)														化管法由 来	
70	オクタデシルアミン(N-B)トリフェニルボラン	難分解性	2	2		外	3	6		10	6000	0.0005																		化管法由 来	
74	メチレンビス(4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート	難分解性	2	2		4	2								0.000031	旧二監(化管 法)														IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3	化管法由 来

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性					発がん性		備考								
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類	備考						
76	ナフタレン	難分解性	2	3			2								0.037	旧二監(化管 法)													IARC:2B EPA:C(1986)・ CBD(1986) EU:3 NTP:R		化管法由 来				
78	3,3'-ジクロロベンジジン	難分解性	2			2	2																					産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R							
79	ビシクロ[2.2.2.1]ヘプタン-2,5(又は2,6)-ジイル=ジシアニドの混合物	難分解性	2	2		外		1	6	10	10	60000	0.000016																						
80	1,4-ジオキサン	難分解性	2																									産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R							
81	モルホリン	難分解性	2	3		2									0.0085	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3		化管法由 来				
82	ε-カプロラクタム	良分解性	2			2	外																				化管法変異原性 クラス1	IARC:4		化管法由 来					
83	ビリジーン-トリフェニルボラン(1/1)	難分解性	2	2		外		1	6					600	0.0017																				
84	ビス(2-スルフィドビリジーン-1-オラト)銅	難分解性	2	2		外		2.5	6					600	0.0041																				
85	ジカリウム=ピベラジン-1,4-ビス(カルボジチオアールト)*1	難分解性	2	3	2	2									0.012	ACGIH(2009 年版)TLV- TWA 1ppmよ り換算	25	10	10	10000	0.0025									化管法変異原性 クラス1					
87	4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂) (液状のものに限る。)	難分解性	2																									化管法変異原性 クラス1	IARC:3		化管法由 来				
90	メタノール	良分解性	2	2		外		2		10				1000	0.002	HPV																			
91	ジエタノールアミン	良分解性	2	2		外	2	0.4	2					200	0.002	HPV															ACGIH:A3 IARC:2B				
92	過酢酸	良分解性	2	2		外		0.75	2					200	0.0038	HPV																			
93	無水酢酸	良分解性	2	2		外		0.56	2					200	0.0028	HPV																			
94	アクリル酸	良分解性	3	3		外		4.5	2					200	0.023	HPV																			
95	クロロ酢酸ナトリウム	良分解性	2	2				15	2	10	10	20000	0.00075																						
97	ヒドロキシルアミン	難分解性 (デフォルト)	2	2																												EU:3			
99	N,N-ジメチルプロパン-1,3-ジイルジアミン	難分解性 (デフォルト)	3	3		外		50	6					600	0.083	SIDS																			
102	プロパン-2-オール (イソプロピルアルコール)	良分解性	4	4		外		33.2	2					200	0.17	ACGIH																MOE, FSC, NTP, EHC, SIDS, ACGIH, Patty, PRED SIDS, FSCで陰性 と結論	ACGIH:A4 IARC:3		

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性						変異原性					発がん性		備考						
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類		備考					
149	3-クロロプロペン(別名塩化アリル)	良分解性	2	3			2								0.013	旧二監(化管 法)														IARC 3 EPA C(1986) EU 3				
150	2-イソプロキシエタノール	難分解性	2	2	4	外		15	6	10			6000	0.0025	厚労省(既存 点検)		150	10										厚労省(既存 点検)						
152	2, 2', 2''-ニトロロ三酢酸のナトリウム塩	難分解性 (デフォルト)	2																											IARC 2B				
153	N-[3-(ジメチルアミノ)プロピル]ステアラミド	難分解性 (デフォルト)	3	3	3	外		50	6	10			6000	0.0083	厚労省(既存 点検)		50	10										厚労省(既存 点検)						
155	p-トルイジン	難分解性	2	3											0.035	旧二監(化管 法)															EU 3			
156	クレゾール	良分解性	2		2	外											30	10	10	10000	0.003	NITE初期リス ク(m-体)		(-)	(+)	SCE(+) UDS(-)	(-)	SLDL(-), DL(-) SCE(-)	NITE初期リス ク		ACGIH A4			
161	アクリル酸重合体のナトリウム塩	難分解性 (デフォルト)	3	3		外		0.05mg/m3 (MAK value)							0.02	DFG															DFG			
162	コールタール	難分解性 (デフォルト)	1																												IARC 1 EPA A(1986) NTP K 産衛 1 EU 1			
163	コールタールピッチ	難分解性 (デフォルト)	1																												IARC 1 ACGIH A1 産衛 1 EU 2			
173	N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)アルカンアミド(C=8, 10, 12, 14, 16, 18, 直鎖型)、(Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9-エンアミド又は(9Z, 12Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9, 12-ジエンアミド	難分解性 (デフォルト)																														IARC 1 ACGIH A1 産衛 1 EU 2		

※1 変化物の二酸化炭素の有害性データが優先評価化学物質の指定根拠となっていることから、二酸化炭素の有害性情報を用いて評価1を実施している。

※2 事業者からの有害性情報の提出により、変異原性については実質的に懸念がないことが示されている。

※3 下線部については、事業者からの情報提供等を踏まえ、新たな有害性情報を用いて評価1を実施している。